

労災疾病等医学研究・開発、普及事業 「労働者の健康支援」領域 メンタルヘルス 研究成果報告書

令和5年3月13日現在

【研究開発テーマ】

メンタルヘルス

【サブテーマ】

職場におけるメンタルヘルス不調の予測因子の検討に関する研究

【研究開発期間】

平成30年7月1日～令和4年3月31日

【研究代表者】

柴岡 三智 独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院 第二精神科部長
第二両立支援部長 勤労者メンタルヘルス研究センター長

【研究分担者】

増田 将史 イオン株式会社 イオングループ総括産業医
岩澤 聡子 防衛医科大学校 衛生学公衆衛生学講師
池澤 聡 東京大学大学院 総合文化研究科 ギフテッド創成寄付講座 特
任准教授
山下 真吾 上尾の森診療所 精神科医師
江口 尚 産業医科大学 産業生態科学研究所 産業精神保健学研究室教授
中込 和幸 国立精神・神経医療研究センター 理事長

【研究協力者】

井上 志乃 元 独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院 臨床心理士

1 はじめに

加古川労基署長事件、電通事件などを契機に、職場でのメンタルヘルス対策の必要性が高まり、「心理的負荷による精神障害等に係る業務上外の判断指針」「事業場における労働者の心の健康づくりの指針」「労働者の心の健康の保持増進のための指針」が公表された。しかし、その後も精神障害による労働災害認定は増加傾向にある。平成21年の厚生労働省の試算では、自殺やうつ病の社会的損失は単年で2.7兆円にものぼり、平成26年6月には労働安全衛生法が改正され、事業場におけるストレスチェックの実施が義務化され、事業所内でのさらなるメンタルヘルス対策が期待されている。また、働き方改革や健康経営の面からも対策の重点は、さらに未然防止へシフトしていくと思われる。

2 研究概要

【目的】

本研究では、以下の

- 1) 労働者の労働生産性に、認知機能障害（記憶、注意等）が影響を及ぼしている
- 2) 労働者の職場不適応に、発達障害の特性であるこだわりの強さや社会認知機能障害等が影響している

という仮説の下に、認知機能評価（1. 主観的認知機能困難尺度 2. Flanker 課題（注意・反応抑制・処理速度） 3. 符号課題（情報処理速度・注意） 4. n-back（ワーキングメモリ） 5. Trail making test-B（遂行機能））や発達障害評価（自閉症スペクトラム評価、注意欠陥多動性障害評価）が縦断的に労働生産性に影響するかを検証する。さらに、研究参加者に認知機能リハビリテーションを実施することで、認知機能および間接的に労働生産性が向上につながるかを探索的検証を行うことを目的とした。

【対象】

企業に勤務する労働者（18-65 歳）で本研究への同意等、手順に従う意志及び能力がある人を対象とし、研究同意が得られなかったものを除外した。

【方法】

本調査の調査に参加することに同意した人がメールアドレスを登録するための Web ページの URL を記載した資料を、紙やメールによって配布し、同意者には web 上でこたえられる自記式質問票を配布した自記式質問票の回答期限を 1 ヶ月とし、その間に認知機能検査を実施した。認知機能検査は対面式であったため、検査日は参加者に個別に連絡（メール）した。認知機能検査は、参加企業を訪問し、企業内の会議室などで実施した。48 週間のフォローアップを実施し、フォローアップ参加者に、改めて認知トレーニング効果検証研究の説明を行い、書面で同意が得られた参加者に対し、12 週間の認知トレーニングを行い、さらに 12 週間後に認知機能検査を行った。

本研究は、独立行政法人労働者健康安全機構の倫理委員会の承認を得て行われた。

【結果】

横断的に、客観的認知機能と労働生産性には有意な関連があることが示唆された。認知トレーニングを行うことで認知機能は改善するが、労働生産性に結び付けるには、さらなる介入が求められることが示唆された。

3 研究成果の社会的意義

本研究は、我々の知る限り、日本の一般労働者における客観的認知機能と労働生産性の関係を調査した初めての研究である。

今後、認知機能が低下していると考えられる労働者に対し、認知トレーニング

を行うことで、労働生産性が向上することが期待できるかもしれない。さらに、本邦では労働人口の減少から定年が延長され、高年齢の労働者が増加する可能性が高い。高齢者の労働生産性向上にも応用可能かもしれない。さらに、職場復帰時に認知機能検査をおこない、認知機能トレーニングを行うことがよりスムーズな復職、労働生産性向上につながる可能性もある。

本研究の社会的意義は、産業保健分野におけるメンタルヘルス分野での、新たな視点での検証をおこなったことにあると考えられる。

4 主な参考文献

1. Ford MT, Cerasoli CP, Higgins JA, Decesare AL. Relationships between psychological, physical, and behavioural health and work performance: a review and meta-analysis. *Work Stress*. 2011; 25(3): 185– 204. doi:10.1080/02678373.2011.609035
2. Toyoshima K, Inoue T, Shimura A, et al. Associations between the depressive symptoms, subjective cognitive function, and presenteeism of Japanese adult workers: a cross-sectional survey study. *Biopsychosoc Med*. 2020; 14: 10. doi:10.1186/s13030-020-00183-x
3. Hori H, Katsuki A, Atake K, Yoshimura R, Nakamura J, Baune BT. Risk factors for further sick leave among Japanese workers returning to work after an episode of major depressive disorder: a prospective follow-up study over 1 year. *BMJ Open*. 2019; 9(9):e029705. doi:10.1136/bmjopen-2019-029705
4. Toyoshima K, Inoue T, Shimura A, et al. Mediating roles of cognitive complaints on relationships between insomnia, state anxiety, and presenteeism in Japanese adult workers. *Int J Environ Res Public Health*. 2021; 18(9): 4516. doi:10.3390/ijerph18094516
5. McIntyre RS, Best MW, Bowie CR, et al. The THINC-integrated tool (THINC-it) screening assessment for cognitive dysfunction: validation in patients with major depressive disorder. *J Clin Psychiatry*. 2017; 78(7): 873– 881.
6. Evans VC, Iverson GL, Yatham LN, Lam RW. The relationship between neurocognitive and psychosocial functioning in major depressive disorder: a systematic review. *J Clin Psychiatry*. 2014; 75(12): 1359– 1370.

5 研究成果の主な普及状況

<論文>

・Michi Shibaoka, Masashi Masuda, Satoko Iwasawa, Satoru Ikezawa, Hisashi Eguchi, Kazuyuki Nakagome: Relationship between objective cognitive functioning and work performance among Japanese workers: Journal of Occupational Health, Volume65, Issue1, 2023, doi:10.1002/1348-9585.12385

<学会発表>

・柴岡三智, 増田将史, 江口尚, 宋裕姫, 井上志乃, 山下真吾, 池澤聰, 中込和幸: 勤労者の認知機能障害と Presenteeism の関連性の検討 (ポスター発表), 第 92 回産業衛生学会, 2019

・Michi Shibaoka, Hisashi Eguchi, Masashi Masuda, Shino Inoue, Shingo Yamashita, Satoru Ikezawa, Kazuyuki Nakagome: The relationship between cognitive function and work productivity among Japanese workers (poster), Cognitive Remediation in Psychiatry, 2019

・柴岡三智, 江口尚, 増田将史, 宋裕姫, 井上志乃, 山下真吾, 池澤聰, 中込和幸: 労働者におけるメンタルヘルス不調と認知機能障害の関連性 (ポスター発表), 第 115 回日本精神神経学会, 2019

・柴岡三智, 増田将史, 江口尚, 井上志乃, 山下真吾, 池澤聰, 中込和幸: 労働者におけるメンタルヘルス不調と認知機能障害の関連性-第 2 報- (ポスター発表), 第 117 回日本精神神経学会, 2021

・柴岡三智, 増田将史, 江口尚, 井上志乃, 山下真吾, 池澤聰, 中込和幸: 労働者のレジリエンスと QOL の関連性 (ポスター発表)、第 95 回日本産業衛生学会, 2022

・柴岡三智, 池澤聰, 増田将史, 井上志乃, 山下真吾, 江口尚, 中込和幸: 労働者における認知トレーニングが労働生産性に与える効果検証 (ポスター発表), 第 118 回日本精神神経学会, 2022

その他、日本職業・災害医学会で労災疾病等医学研究報告を 2019 年から 2022 年まで毎年行った。